



公共イメージについて

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 丸尾 研一（神戸西神 RC）

RIは行動計画の中に「参加者の基盤を広げる」がありますが、まずはロータリーの認知度を高めなくてはならないと思いますが特効薬はありません。先ず一人ひとりのロータリー会員がロータリーの会合に行くときだけではなく、いつもロータリーバッジを身につける、奉仕活動、イベント等でロータリーグッズを身につける、車にポリオのステッカーを貼る、そしてもっとも大切なのは、ロータリー会員一人ひとりが強力な広報マンであり、一人ひとりが情報を発信することです。私たちはロータリーについて説明するために、いろいろ情報を入手し、適切に説明できなければなりません。私たちがロータリーで経験した感動的な体験について話すことも大切です。普段からコツコツとロータリー会員とクラブが、地道に奉仕活動を続け、認知してもらい、好意をもってもらい、そして今後に期待してもらい、この繰り返しがロータリーブランドの向上に繋がるものと確信しております。



ロータリークラブができたのは、1905年2月23日ですので誕生してから来年で120年になります。ではいつ頃クラブができたのか史書を紐解いていくと、シェイクスピアが出てくる16世紀、彼は劇作家としてロンドンっ子の注目を一身に集めていたテムズ河畔にあった煉瓦造りのホテル「マーメイド・ターバン」のレストランがシェイクスピアの行きつけとわかったと、多くの人がそこに集まりはじめた。シェイクスピアは、自身で役者をつとめたこともあって声が大きく、朗々と愉快地にしゃべる男だったので、彼が店にいることは一目瞭然だった、すると演劇愛好者をはじめ、ついには一杯の酒にありつきたい浮浪者までがテーブルを取り囲み、收拾のつかない騒ぎとなった。「このままでは、親しい友人とゆっくり話し合うこともできない。奥の部屋を借りて、決められた顔ぶれだけで集まるようにしようじゃないか」シェイクスピアの発案によってここにクラブ誕生する。定義が残っています。

「共通の趣味を持つ者が、親しく会合して研鑽をはかり、さらに親睦を深める」。どこか似ていませんか、1592年のことです。それまでも政党的なものはありませんでしたが、本当の意味でのクラブは「マーメイド・ターバン」の奥の部屋でシェイクスピアによって生み出されたと考えられる。その時の顔ぶれを見ると、劇作家、流行作家、探検家、ギリシャ研究者、詩人、当時のロンドンの代表的知識人が集まっていた。どんな議論がでたのか想像するだけで楽しいものです。